

横浜市小児科医会ニュース



No.52 2016年4月1日

≡≡≡ 時 言 ≡≡≡

障害児者医療にご理解を

横浜市小児科医会常任幹事 三宅捷太
(社会福祉法人 キャンラード 重症心身障害児者
在宅支援多機能施設 みどりの家診療所所長)

少子化の事はよく知られていますが少死化についてはあまり知られていません。横浜市で平成26年の15歳以下の死亡は徐々に減って110人となっています。私が小児科医になって研修した45年前の子ども医療センターの1年間の死亡数は250人でした。乳児死亡率は2.0となり日本でも低率の地域です。小児医療・小児保健・子どもの健全育成の進歩によるものです。

私は養護学校の卒業後に通所するデイケアセンターに併設された診療所の医師をしています。60人以上の重症心身障害者のかかりつけ医師として初期治療・健康診査・予防接種などを行っています。そして横浜市北部地域の発達障害・知的障害・てんかん・心身症の健康支援と医療を担当しています。

医療者の最大限の努力と本人の回復力の強さで、死を免れても障害を残す例が少なくありません。大病院では胃瘻・気管切開・人工呼吸器をつけて1年以上も在宅生活に移行できず入院し続けている例も少なくありません。先日も病院を訪問して退院カンファランスに参加してきました。病院主治医から2歳の男児のかかりつけ医を依頼されました。先天性代謝障害で呼吸障害・摂食障害のために気管切開・夜間バイパップ・酸素・吸引・吸入・胃瘻からの水分・栄養注入の医療的ケアを用いて在宅生活をするようになりました。私は一般診療・予防接種・カニューレ交換・胃瘻交換・物品配布が主な役割となります。このカンファランスでは家族を支援するために、私と共に訪問看護師・訪問PT・ヘルパー・入浴サービスなどの医療福祉サービスのスタッフが同席しました。

毎日誰かが家族と共に見守り支援する体制の一員として病院主治医とは別にかかりつけ医がい

るようになります。月に2回30-40分以上定期訪問し、業者と共に機器を管理しますと約2万点の診療報酬益となります。さらに家族の肉体的・経済的負担を軽減するための方策も充実しつつあります。主治医のいる病院や地域の中核病院または重心多機能支援施設で短期入所をして、本人の体調の確認と家族の休養となるレスバイトの機会を作っています。日中の一時預かりや放課後支援のほかに、特別児童手当や重心手当が本人の生活支援に月に5-10万円以上が家族に給付されます。タクシー券・各種の割引・税の軽減などの側面的な支援もあります。これらを相談調整するケースワーカーが各地域に配置されて高齢者のケアマネージャーと同様になりつつあります。

予防接種・乳幼児健診・初期医療の進歩で小児医療が変革の時期なので、ぜひとも慢性疾患の生活支援、子どもの貧困対策、心の健康を保つ学校保健などの分野に小児科医の守備範囲を広げて戴きたいと願うものです。その中に発達障害を含む障害児医療を含めて戴きたいのです。そしてこれまで以上に地域の包括的小児医療・子どもの健全育成のオピニオンリーダーとなって戴きたいと切望します。



最近の話題

(8)

横浜市における子どもの maltreatmentへの取り組み

横浜市子ども青少年局医務担当部長

辻 本 愛 子

私は平成9年に横浜市の行政医師職へ転職し、それまでの小児科医としての臨床や研究を離れました。もちろん私的な事情もありましたが、小児科医として子どもの様々な問題には、臨床現場だけではなく、社会全体が関わらなければなかなか解決できないものが多いように思ったことも、転職の一つの理由です。実際には行政に関わるようになって、当然社会を大きく動かせるわけもなく、行政職の医師として何をどのように進めていくべきか悩みながらの毎日を、今も過ごしています。ただ、横浜市役所の大先輩である三宅捷太先生から受け継いだ、児童虐待予防、子どものmaltreatment対策については、横浜市でかなり精力的に取り組んできたと思いますので、僭越ながら本稿でご報告させていただければと思います。

最近では新聞報道などで、虐待の記事を見ない日がないといってよいほどで、痛ましい事件を知るたびに、「どうなっているのだ」「何とかならなかったのか」と歯がゆい思いをしておられる方が多いことと思います。ただ事件として公表されるのは児童虐待の実態の極々一部ですし、またそのような事例は決して特殊な事情の特殊な親によるものでないことを、私たちは認識せねばなりません。

横浜市においても重篤な死亡事例などが続き、その反省からしっかりとした体制で、養育支援の必要な家庭（maltreatmentが疑われる家庭）を支援し、見守っていく必要性が

認識されました。現在横浜市では「養育支援台帳」を作成し、子供に死亡や重篤な障害を与える危険が高いAランクから、うまく養育に対応できていない程度のEランクまで、5段階のカテゴリーにわけて家庭を見守っています。その総数は現在6000件以上にものぼり、区役所子ども家庭支援課および児童相談所がその管理にあたっています。台帳に登載された家庭に対し、ランクを上げないための区役所のきめ細かい支援、高いランクの家庭への積極的な児童相談所による介入などが進められているところです。このハイリスク家庭への地道な支援の継続が、虐待を予防する唯一の方法かと考えています。

養育成支援台帳に登載するケースの多くは、妊娠届や新生児訪問、乳幼児健診などの通常の母子保健業務の中で、把握されています。以前であれば、赤ちゃんが健康に育っていることの確認や疾病の早期発見が、これらの事業での主たる目的でしたが、昨今ではどちらかといえばお母さんの育児能力やメンタルヘルスの確認、子育て不安や愛着障害の状況、社会経済的な問題の有無を把握することなどが主眼となりつつあります。区役所では主に、保健師や助産師、社会福祉職がその任にあたっていますが、正確なアセスメントはなかなか難しい課題で、あらゆる方面からの情報を集約することが大変重要です。

横浜市乳幼児健診については、現在95%以上の方が、区役所の集団健診（4か月、1歳6か月、3歳）を受けており、また医療機関に委託させていただいている乳児健診では、受診率は約80%となっています。集団健診未受診者については、再勧奨を行い、また未受診理由を伺い、事情が不明の家庭については訪問、問い合わせなどを行っています。以前はよくわからないまま住民票を削除していたようなケースも、現在では虐待の危険がないかどうかをほぼ100%確認することができるようになりました。

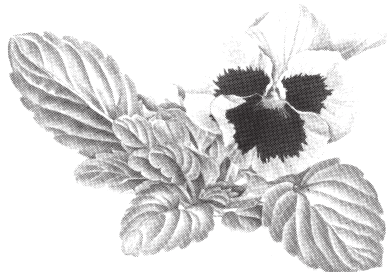
区役所乳幼児健診に来所する家庭の中でも、予防接種を全く受けていない、体重がほとんど増加していない、重症のアトピー皮膚

炎がある，などにもかかわらず医療機関を受診していないなど，医療ネグレクトに相当するようなケースも散見されています。また，赤ちゃんは身体的には問題ないのですが，お母さんが精神的にかなり不調だったり，こどもへのかかわり方が不適切だったりして，今後の子どもの心の発達に問題をきたしそうな家庭は少なからずあるかと思えます。

このような家庭を早期に把握し，親の育児不安を解消するための訪問やヘルパー派遣，親が子育てを学べる場の提供，こどもの一時預かり・保育所入所などによって，サポートすることで，虐待・maltreatmentにつながる芽を摘むことが最も重要だと考えています。当然このような母子保健の範疇での虐待予防・未然防止は，区役所だけで行えるものではなく，妊婦健診医療機関や分娩機関，乳幼児健診や予防接種医療機関等のご協力がなくては進められません。市内産婦人科・小児科医療機関には診療情報提供による通報や積極的なご連絡をお願いし，平成26年度には合計で1626件ものご連絡，通報をいただきました。各区における虐待防止にかかわる要保護

児童対策協議会への参画も含め，今後も引き続きのご協力をお願いしたいと存じます。

児童相談所の一時保護所や児童養護施設に入所する子どもには，発達障害や精神的な問題，知的な問題が多く見受けられます。生後の脳発達過程の感受性期（2歳ぐらいまで）にうけた児童虐待ストレスの脳への影響が，脳科学的にも証明されており，これらが被虐待児にみられる発達障害・知的障害・うつ・衝動性・非行・家庭内暴力・学業不振・学校不適応・依存症等を説明するとされています。虐待といわれるほどでないしつけのための体罰や，暴言だけでも脳への影響があるという報告もあり，生まれてからわずか期間の生育環境が人間の成長をかなり規定してしまうおそれがあることを，医療・保健・福祉すべての関係者が念頭に置かなければなりません。子どもたちの将来の精神疾患や非行・障害などに伴う社会的コストを考えれば，予防のためのコストはわずかです。国全体で早期からのこどものmaltreatment対策を，さらに進める必要があると強く感じています。



平成27年度横浜市小児科医会総会・研修会

平成27年10月14日（水）

< 講演 1 >

「経口補水療法 ～診療の実際と小児急性胃腸炎診療 ガイドライン作成の経緯～」

済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科 副部長 十 河 剛

経口補水療法（ORT）とは、急性胃腸炎による脱水を予防もしくは補正するために、経口補水液（ORS）を用いて、水分と電解質を経口もしくは経鼻胃管により投与する治療法である。ORTには以下の2相が含まれる。1）補水相：下痢や嘔吐により喪失し、現在、不足している水分と電解質を補充する。2）維持相：下痢や嘔吐が持続することにより喪失していく水分と電解質を補充する。ORTは急性胃腸炎治療の初期治療として、まず行うべき治療であり、下痢や嘔吐が始まった時点で、速やかにORTを開始する。小児急性胃腸炎診療ガイドラインでは以下のORTに関するCQと推奨文を採用する予定である。

- C Q 1. 脱水のない、もしくは中等症以下の脱水のある小児急性胃腸炎に対する初期治療として、ORTは推奨されるか？
- A. 脱水のない、もしくは中等症以下の脱水のある小児急性胃腸炎に対する初期治療としては、経静脈輸液よりもORTが推奨される。ORTは、嘔吐や下痢の症状が始まったら、速やかに自宅で開始することが推奨される。

C Q 2. 軽症～中等症の脱水のある小児急性胃腸炎に対する初期治療として、どのようにORSを投与することが推奨されるか？

- A. 軽症～中等症の脱水のある小児急性胃腸炎に対する初期治療として、4時間以内に不足分の水分をORSで経口摂取することが推奨される。

C Q 3. 嘔吐症状がある小児急性胃腸炎に対して、ORTは推奨されるか？

- A. 嘔吐症状がある小児急性胃腸炎に対しても、ORTは推奨される。

C Q 4. ORS摂取を嫌がる小児急性胃腸炎に対して、代替策としてORS以外の飲料摂取は推奨されるか？

- A. ORSを嫌がって十分な量のORSが摂取できない場合には、明らかな脱水所見がなければ、ORS以外の水分を摂取してもよい。但し、脱水兆候が出現したり、意識レベルの変調が見られたりした場合には、速やかに医療機関を受診するべきである。

横浜市小児科医会会長

藤原 芳 人

1) 報告；

平成27年度 横浜市小児科医会秋季研修会

日時：平成27年10月14日（水）

講演1) 感染性胃腸炎と経口補水療法

十河 剛 先生（済生会横浜市
東部病院こどもセンター小児
肝臓消化器科 副部長）

講演2) 漢方薬のお話

森 蘭子 先生（森こどもクリ
ニック）

参加人数は同日に行われた運動器検診の講演会と重複したため若干少なかったです。内容はとても興味深くもっと多くの会員に参加してもらえればよかったです。

第39回 横浜市産科小児科研究会；

平成28年2月5日（金）（小児科医会主催）

講演1) 『食物アレルギーUP TO DATE
と外来食物経口負荷試験の実
際』

相原アレルギー科・小児科クリ
ニック 相原 雄幸 先生

講演2) 「周産期から始まる子どものアト
ピーマーチの予防と早期治療」

国立成育医療センター生体防御
系内科部アレルギー科
大矢 幸弘 先生

予定；

平成28年度 横浜市小児科医会総会及び研修会

平成28年5月25日（水）

講演1) 『エンテロウイルスD68による
弛緩性麻痺全国調査報告』（仮
題）

吉良 龍太郎 先生（福岡こど
も病院小児神経科科長）

講演2) 『ワクチンとアジュバントに関
する最新の情報』（仮題）

石井 健 先生（大阪大学免疫
学フロンティア研究センター
ワクチン学教授）

第40回 横浜市産婦人科医会・小児科医会研
究会（横浜市産婦人科医会が担当）

講演 子宮頸がん予防についての現状

宮城 悦子先生（公立大学法人横浜
市立大学大学院医学研究科がん総合
医学科学教授）

お願い；

1) 東日本大震災義援金；東日本大震災の義
援金もまた本年度もどうぞよろしくお願
い申し上げます。

2) 熊本地震の義援金を募りたいと思います。
熊本県、大分県の小児科医会への義援金と
して年会費の際に東日本大震災と同様に趣
意書を用意して皆様をお願いしたいと考
えております。

連絡；

会員名簿を2年ぶりに更新しました。ご査
収ください。

区会だより

青葉区小児科医会

平成27年度下半期の活動を報告します。

1. 青葉区小児科医会学術講演会

日時：平成27年9月7日（月）19時30分

会場：青葉台フォーラム 2階「桜橘」

演題：「けいれん発作 診断のポイントとピットフォール」

演者：聖マリアンナ医科大学医学部小児科学教室

教授 山本 仁 先生

* 日頃の診療では熱性けいれんが大多数ですが、それ以外のけいれん発作をおこす疾患については、小児神経学を専門としていない医師には、知識、経験ともに十分とはいえないのが実情です。山本教授には、けいれんをきたす原因疾患、発作型などの基本的な知識をはじめ、鑑別診断には年齢が重要（新生児、乳幼児、学童期）であること、けいれん重積は30分以内に止めること、てんかんおよび抗てんかん薬の作用機序等について解説していただきました。1回の講演では時間が足りず数回に分けてご講演いただきたい内容でした。

日時：平成27年10月19日（月）19時30分

会場：青葉台フォーラム 2F「桂藤」

演題：「はじめよう！夜尿症診療」

演者：昭和大学藤が丘病院 小児科

准教授 池田 裕一 先生

* 昼間遺尿、二次性夜尿、排便異常のある夜尿症を除外し、我々開業医は一次性夜尿の初期診療を担当する必要があります。池田先生には、初期診療の流れ、そのポイントを中心に解説していただきました。水分や食事の摂り方（水分は朝、昼食時にたっぷり、夕食は就寝前2時間までに摂り、塩分や糖분을控えめに、夕

食後から寝るまでの水分量は200ml以内に）、就寝前の排尿（30分間隔で2回）といった生活指導をおこなったのちに、抗利尿ホルモン剤あるいはアラーム療法のいずれかで開始し、その治療効果を見ていきます。夜尿症の治療をなんとなく敬遠していた会員からは、演題のように「夜尿症の診療をはじめてみよう」という気持ちになる講演であったと好評でした。

2. 第27回藤が丘小児科クラブ（青葉区小児科医会共催）

日時：平成27年11月18日 19時30分

会場：昭和大学藤が丘病院C棟1階会議室

演題：

症例検討

「消化管アレルギーが疑われた新生児について」

昭和大学藤が丘病院小児科

岡本 義久 先生

「発汗異常を契機に発見された脳腫瘍の6歳男児」

昭和大学藤が丘病院小児科

児玉 雅彦 先生

「川崎病様症状を示したEdwardsiella tarda感染症の男児例」

昭和大学藤が丘病院小児科

西岡 貴弘 先生

「意識障害を呈した血管性紫斑病の1例」

昭和大学藤が丘病院小児科

平林 千寿 先生

3. 青葉福祉保健センター主催の講演会

日時：平成27年9月17日 13時30分

会場：青葉福祉保健センター

「小児救急講座」

あざがみ小児クリニック

阿座上 志郎 先生

日時：平成28年1月7日 13時30分

会場：青葉福祉保健センター

「乳児期親向け講座」

井上小児科 井上 浩一 先生

4. インフルエンザワクチンの効果に関する調査研究

平成26/27年に15歳未満を対象にtest-negative design という手法を用いて、7施設で調査しました（結果：有効率は48%）。今シーズンは13施設の協力を得て同様の調査を行っています。

最後に、青葉区小児科医会会長は平成28年度から阿座上志郎先生に交代します。皆様には、2年間お世話になりありがとうございました。

(文責 林 智靖)

南部小児科医会

横浜市南部小児科医会の最近の事業内容をご報告します。

●第23回南部病院小児科地域連携集談会

11月11日（水）

於 済生会横浜市南部病院 4階講義室

共催：Meiji Seikaファルマ株式会社

①遷延する発熱を主訴に受診した化膿性肩関節炎の1例

尾高 真生 先生

②母体ITPより出生した血小板減少を呈する1ヶ月男児

今井 祥恵 先生

③発熱・嘔吐で発症したマイコプラズマ肺炎の1例

北尾 牧子 先生

④年長児の腸重積症、14歳男児例

吉富 誠弘 先生

●拡大幹事会

12月2日（水）

於 港南台せんざん(当番幹事 宇南山)

●第14回横浜市南部小児科医会、金沢区小児科医会新年合同研究会

平成28年1月23日（土）

於 横浜テクノタワーホテル

共催：第一三共株式会社、ジャパンワクチン株式会社

特別講演

「定期接種になったワクチンと定期接種予定のワクチン」

講師：谷口 清洲先生（国立病院機構三重病院 臨床研究部長）

東部小児科医会

平成27年度後半の主な活動を報告します。

(1) 平成27年7月9日

第9回横浜市東部小児連携の会

第94回横浜市東部小児科医会

(共催 横浜市東部小児科医会・鶴見区医師会・済生会横浜市東部病院)

東部病院症例検討会

演題1：反復する左上下肢の脱欲を契機に診断されたモヤモヤ病の一例

演者：済生会横浜市東部病院

総合小児科 石橋 麻由 先生

演題2：IVIG療法が奏功したが経過中に冠動脈瘤を合併した川崎病の一例

演者：済生会横浜市東部病院

総合小児科 斎藤 祐弥 先生

演題3：東部病院NICUの紹介

演者：済生会横浜市東部病院

新生児科 武田 義隆 先生

演題4：小児慢性機能性便秘症について～地域連携パス作成に向けて～

演者：済生会横浜市東部病院

小児肝臓消化器科

十河 剛 先生

会場：済生会横浜市東部病院

(2) 平成27年9月10日
横浜市東部西部合同小児科医会
(共催：横浜市東部小児科医会・横浜市西部小児科医会・大正富山医薬品)
演題1：横浜労災病院での小児外科治療の現状
演者：横浜労災病院小児外科
小松 秀吾 先生
特別講演：小児の呼吸器疾患における咳嗽・喘鳴の病態と治療
演者：東海大学医学部専門診療学系小児科学教授 望月 博之 先生
会場：崎陽軒本店ダイナスティー（4F）

(3) 平成27年12月3日
第96回横浜市東部小児科医会
演題1：小児てんかんの薬物療法（仮）
演者：横浜労災病院小児科
大松 泰生 先生
特別講演：学校検尿・3歳検尿と腎疾患の早期発見
演者：横浜市立大学大学院医学研究科
発生成育小児医療学主任教授
伊藤 秀一 先生
会場：横浜労災病院

(4) 平成28年2月18日
第97回横浜市東部小児科医会
演題1：長期間無治療の齲歯によって生じた菌性膿瘍・下顎骨骨髓炎の一例
演者：横浜労災病院小児科
灘 大志 先生
演題2：アナフィラキシー後菌血症の一乳児例
演者：横浜労災病院小児科
阿曾沼 良太 先生
演題3：MRSAによる化膿性筋膜炎の一例
演者：横浜労災病院小児科
太田 貴子 先生

演題4：当院における小児虫垂炎症例の検討
演者：横浜労災病院小児科
伊藤 萌 先生
演題5：中学校心臓検診で心電図異常より発見された単純型大動脈縮窄症の一例
演者：横浜労災病院小児科
西澤 崇 先生
演題6：当科における結核診療の現況
演者：横浜労災病院小児科
佐藤 厚夫 先生
会場：横浜労災病院

今年度も横浜労災病院・済生会横浜市東部病院長の先生方のご協力のもとに、計5回の講演会・症例検討会を行いました。横浜市立大学教授の伊藤秀一先生のご講演は大変分かりやすく、普段の診療に役立つものでした。

(文責 川端 清)

南西部小児科医会

横浜医療センターとの研究会（年3回）を主体に活動しています。

「第41回戸塚区小児疾患研究会」

日時：平成27年7月24日19時30分
会場：横浜医療センター2階大会議室
演者：横浜医療センター
鏑木 陽一 先生 他

演題：

1. 持続血糖モニターを用いて血糖管理とインスリン量の調節ができた一過性新生児糖尿病の極低出生体重児の一例
2. 頭蓋咽頭腫に対し腫瘍摘出術施行後に下垂体ホルモンの補充を開始した8歳男児例
3. 全身黄疸を主訴に来院し薬剤性溶血性貧血が疑われた一例

4. 全身の紫斑を主訴に受診した7ヶ月男児の一例
5. 虐待を受けた生後1ヶ月の一例

特別講演：小児の呼吸器疾患における咳嗽・喘鳴の病態と治療
 演者：東海大学医学部 専門診療学系教授 望月 博之 先生

「第42回戸塚区小児疾患研究会」

日時：平成27年11月27日19時30分
 会場：横浜医療センター 2階大会議室
 演者：横浜医療センター
 鏑木 陽一 先生 他

(文責：尾崎 亮)

演題：

1. 症状再燃を繰り返した急性膀胱炎
2. 溶血性尿毒症症候群の重症化を予防しえた腸管出血性大腸菌感染症の1例
3. 先天性ネフローゼの1例
4. 当院における尿路感染症の臨床像
5. 当院における尿路感染症の治療方針
6. 紹介患者様のスムーズな受入を目指して

今後は、講師の先生をお迎えして講演会も予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

嶽間澤昌和先生のご引退後、当面は小泉が引き継がせていただきます。よろしくお願いたします。

(文責 小泉 友喜彦)

金沢区小児科医会

第14回横浜市南部小児科医会・金沢区小児科医会 新年合同研究会
 横浜市南部小児科医会 会長 森 哲夫
 金沢区小児科医会 会長 浅井 義之

記

日時：平成2016年1月23日(土)
 17:00~18:30

場所：横浜テクノタワーホテル18階
 「グランシャリオ」
 横浜市金沢区福浦1-1-1
 TEL:045(788)7400

西部小児科医会

平成27年度下半期の活動を報告します。
 横浜市東部西部合同小児科医会として開催しました。今回は東部小児科医会が主催しました。

日時：平成27年9月10日
 会場：崎陽軒本店
 司会：東部小児科医会会長
 川端 清 先生
 講演：横浜労災病院での小児外科治療の現状
 演者：横浜労災病院 小児外科
 小林 秀吾 先生

【特別講演】

座長 もり小児科 院長 森 哲夫先生
 「定期接種になったワクチンと定期接種予定のワクチン」
 ~最近の感染症の話題も含めて~
 独立行政法人 国立病院機構 三重病院
 臨床研究部長 谷口 清洲 先生

上記の内容で勉強会が行われた。
 当日の事前予報では雪が降るとの事で心配されたが、出席予定18名のうち15名が参加され、研究会終了後の意見交換会を含め、熱心に討議された。ワクチン行政が変わりゆく中で最新の情報が得られ有意義な会であった。

(文責 浅井 義之)

＝ 庶 務 報 告 ＝

講師：国立成育医療センター生体防御系
内科部アレルギー科
大矢 幸弘 先生

1. 平成27年度研修会

H27. 10. 14 (水)

横浜崎陽軒

出席者：37名

講演①

演題：経口補水療法 ～診療の実際と小
児急性胃腸炎診療ガイドライン作
成の経緯～

講師：済生会横浜市東部病院
小児肝臓消化器科副部長
十河 剛 先生

講演②

演題：小児漢方、ファーストステップ～
すぐ使える10の処方と服薬指導の
実際～

講師：森こどもクリニック
院長 森 蘭子 先生

2. 常任幹事会

H27. 12. 11 (金)

於 ベイシェラトンホテル&タワーズ

出席者：12名

3. 常任幹事会

H28. 3. 23 (水)

於 ベイシェラトンホテル&タワーズ

出席者：19名

(文責 大山 学)

4. 第39回産婦人科・小児科研究会

H28. 2. 5 (金)

於 ホテル横浜キャメロットジャパン

出席者：89名 (小児科：65名)

講演①

演題：食物アレルギーUP TO DATEと
外来食物経口負荷試験の実際

講師：相原アレルギー科・小児科クリニック
院長 相原 雄幸 先生

講演②

演題：周産期から始める子どものアトピー
マーチ予防と早期治療

5. 広報活動

H27. 10. 1 (水)

小児科医会ニュース (第50号) の発行

6. 表彰

横浜市医師会学術功労者表彰受賞
池部 敏市 先生

7. その他

* 東日本大震災義援金

(岩手・宮城・福島3県小児科医会)

送金額：720,000円 (H27. 11. 27送金)

* 第23回横浜臨床医学会学術集談会

H27. 12. 12 (土)

会場：崎陽軒本店

小児科医会演題：

食物アレルギー UP TO DATE

小児科医会演者：

相原 雄幸 先生 (相原アレルギー科・
小児科クリニック)

＝ 会計報告 (中間) ＝

横浜市小児科医会会計の中間報告を申し上げます。

中間報告 H28. 3. 31現在

現在高	1,446,087円
(内訳) 現金	0円
郵便貯金	434,629円
医師信用組合	1,011,458円

(会計 池部 敏市)

会員動向（平成27年10月～平成28年3月）

入会 1名

〒230-0001
鶴見区矢向1-6-20
(公財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院
TEL 045-574-1011
富澤 明子

退会 3名

区名	氏名	備考
鶴見区	宇野 律子	
港北区	佐藤 文比古	
南区	池田 孝	

異動 1名

渡部 創	異動事項：移転
〒230-0051 鶴見区鶴見中央3-19-11 (医)渡部クリニック TEL 045-506-3657	
廣岡 幸祐	異動事項：閉院
佐久間 健	異動事項：閉院

会員数：241名（平成28年3月31日現在）

編集後記

インフルエンザBの流行がだらだらと続く今シーズンであったが、ようやく春を迎え身も心も少しは軽くなるかと思いきや、現実的に算定は絶対不可能な「小児かかりつけ診療料」に呆れるやら、憤りを覚えるやらの4月のスタートでした。

今回の「時言」や「最近の話題」の内容は、私たち一般開業医にとって必ずしも身近に感じられるものではなかったのですが、この際お書き頂いてよかったと思いました。三宅先生、辻本先生、ありがとうございました。

（広報担当常任幹事 大川 尚美）



2016年4月1日発行

横浜市小児科医会ニュース No. 52

題字 五十嵐鐵馬

発行人 横浜市小児科医会

代表 藤原 芳人

編集：横浜市小児科医会広報部

事務局：〒231-0062

横浜市中区桜木町1-1

横浜市医師会 地域医療課

Tel 201-7363